

The 3-year cumulative survival rates of
posterior monolithic zirconia crowns and their
antagonist teeth, and their influencing factors

後藤, 碧

<https://hdl.handle.net/2324/6787524>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (歯学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名 : 後藤 碧

論 文 名 : The 3-year cumulative survival rates of posterior monolithic zirconia crowns and their antagonist teeth, and their influencing factors
(臼歯部モノリシックジルコニアクラウンとその対合歯の3年累積生存率とそれらに影響を与える因子の検証)

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

背景及び目的:近年,ジルコニアのみで製作されるモノリシックジルコニアクラウン(Monolithic Zirconia Crown:以下MZC)は,その機械的特性や生体親和性から臨床応用されるようになり,良好な臨床成績を示している.一方でその機械的特性に起因する対合歯の咬耗が懸念されており,咬耗に関する多くの研究報告がなされているものの,対合歯の生存率や他の合併症に関する研究はほとんど見当たらない.そこで本研究では,臼歯部MZCに加え,その対合歯の生存率についても後ろ向きに調査し,それらに影響を与える因子の検証を目的とした.

材料及び方法:2014年4月から2020年9月までに九州大学病院補綴科で臼歯部天然歯に単冠のMZCを装着した患者のうち,装着後6カ月以上経過し,少なくとも1回の経過観察がある患者を対象とした.診療録およびX線写真より以下のデータを抽出し,臨床的評価を行った.

- 1) 一般的項目:性別,装着時年齢,Eichnerの分類
- 2) 支台歯に関する項目:部位,生存期間,歯髄の有無,使用ジルコニア材料,使用セメント材料,合併症
- 3) 対合歯に関する項目:部位,MZC補綴後の対合歯の生存期間,歯髄の有無,歯冠修復の有無及びその材料,合併症

なお,生存期間分析にはKaplan-Meier法を用い,Cox比例ハザードモデルとハザード比(HR)を使用して,生存期間と影響因子(上下顎別,臼歯部別,歯髄の有無別)との関連性も検証した.

結果:MZCの3年累積生存率は89.8%であった(177本のMZCのうち9本が失敗,95%信頼区間(CI)80.0-95.1%).Cox比例ハザードモデルでは,MZCの支台歯の生存率には歯髄の有無が有意な影響因子であることが示された(HR:2.76^{e+9},P=0.012).また対合歯の3年累積生存率は94.8%であった(171本の対合歯のうち7本が失敗,95%CI:89.3-97.6%).また,Cox比例ハザードモデルにおいて,対合歯でも歯髄の有無が有意な影響因子であることが示された(HR:7.83,P=0.03).

結論:本研究では,臼歯部での単冠MZCの臨床的有用性が示された.また,MZCの支台歯および対合歯が無髄歯の場合,それぞれ生存率が低くなる可能性が示唆された.

